

消えゆくシーメンス GTO

中 1 中嶋隆貴

その 1 シーメンス GTO とは

シーメンス GTO とはドイツのシーメンス社が作っていた、発車時に音階を鳴らして加速するモーターのことで、「歌う電車」や「ドレミファインバーター」などと呼ばれている。特徴として雨の時にほかの車両(京成 3000 形とか)よりも空転する。(加速を維持させるためにある程度の空転を許容しているそう)ここに来るときに乗ってきた方もいらっしやるのではないかな?保守点検が大変だとかもう製造していないという理由で日本では、京急に 5 編成が残るのみだ。(ドイツではまだ走っているが) 8 月上旬に機器更新して 1 本が歌を忘れた。2018 年度中にもう 1 編成が歌を忘れてしまうそうだ。2018 年 8 月 15 日現在ドレミファインバーターとして残存している編成は 1009 編成、1017 編成、1025 編成、1033 編成、1413 編成だ。



1009 編成



1017 編成



1025 編成



1033 編成



1413 編成

※日本に残るドレミファ車は上の 5 本だけです。

その 2

2-1 JR のシーメンス GTO

JR では E501 系と E2 系 GTO 搭載車が廃車になるまで採用されていた。

2-1-1 E501 系

加速時はミレファソラシドレミファソと鳴る。筆者は見たことがない。なぜかと言うと E501 系がシーメンス GTO を使っていたことを知ったのが、シーメンスが全廃された後の 2017 年 12 月だったからだ。おまけに常磐線に初めて乗ったのが 2017 年 2 月という悲劇(笑)



写真は Wikipedia より

2-1-2 E2系0番台

北陸（長野）新幹線あさまとして活躍したE2系0番台だが、こちらも一部編成でシーメンスGTOを採用していた。尚加速時の音階はないようだ。東芝と共同開発したためとのこと。



2-2 京急のシーメンスGTO

京急では2100形が2015年まで、新1000形が今も一部編成で使われている。

加速時はミ♭ファソラシ♭ド♭レミファソと鳴る。

2-2-1 2100形

全編成に採用された。2015年までに全編成が更新されるまで使用されていた。新1000形は変調が多い（4～5回）のに対し、2100形は変調が少なく（2回）なっている。



2-2-2 新 1000 形



一次車と二次車の 9 編成に採用された。しかし更新が進み 1001 編成、1401 編成、1405 編成、1409 編成は歌を忘れてしまった。特に 1409 編成に関しては 2018 年 8 月上旬頃京急ファインテック久里浜工場を出場して試運転をした。シーメンス GTO から東芝 IGBT に機器が変えられてしまった。つまり歌を忘れてしまったということだ。また今年度中にあと 4 両更新予定だ。4V ドレミファはいつまで残るかなー (笑)

※4V とは 4 両編成の新 1000 形という意味で、V で新 1000 形を表している。8 両の時は 8V などという。2100 形の時 E、1500 形の時 S、600 形の時 F と表す。

車両の更新 新 1000 形 8 両 (内 4 両に施工中) 後 4 両しか更新できないので餌食になるのは最後の 4 両ドレミファインバーター1413 編成と思われる。

↑ 2018 年度 京浜急行電鉄鉄道事業設備投資計画より



←更新された 1001 編成

その 3 まとめ

今回が初めての執筆だったがいかがだろうか？ドレミファインバーターはなくなりつつありレア度が増している。乗るなら今だと思うのは僕だけだろうか？残してほしい気もするが現状を見ると無理に思える。できるだけ長く残ることを祈っている。

その 4 参考文献

ウィキペディアなど

http://www.keikyu.co.jp/company/news/2018/20180509HP_18031EW.html